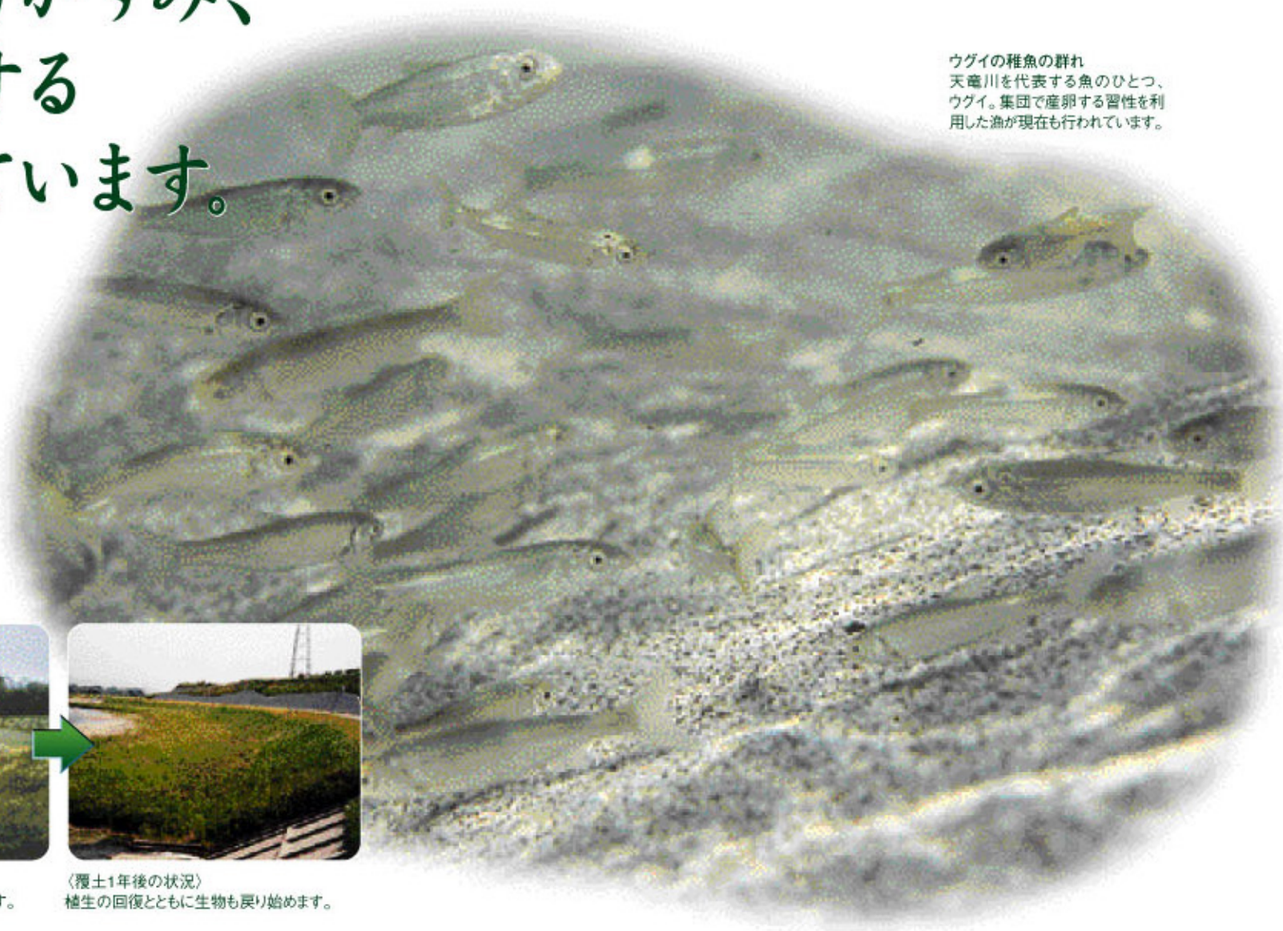
さまざまな生き物がすみ、人と自然が共生する天竜川をめざしています。



ウグイの稚魚の群れ
天竜川を代表する魚のひとつ、ウグイ。集団で産卵する習性を利用した漁が現在も行われています。

河川工事にあわせて動植物に配慮した川づくりを進めています。

多自然型川づくり

護岸整備などの河川工事にあたっては、治水面の安全性を確保しながら、河川に生息するさまざまな動植物の生息・生育環境にも配慮した「多自然型川づくり」を進めています。

■多自然型川づくりの例

〈コンクリート護岸完成〉
洪水に備え、護岸で堤防を保護。

〈コンクリート護岸に覆土〉
可能な限り、工事前のかたちに戻します。

〈覆土1年後の状況〉
植生の回復とともに生物も戻り始めます。

魚道や環境ブロックを設置するなど、魚の生態に配慮しています。

魚類への配慮

天竜川には多くの魚が生息しています。これらの魚にとってもすみやすい川にするため、さまざまな配慮をしながら河川事業や砂防事業を進めています。

■環境ブロック
表面が滑らかなコンクリート製ブロック。アユが好む珪藻(けいそう)類が付着しやすいよう工夫されています。

■魚道
堰や床固工など、水の流れに落差が生じている所には、魚が川を自由に行き来できるよう魚道を設置しています。

■スリット型砂防えん堤
えん堤で川幅を狭くし、洪水時の土砂を調節します。平常時には徐々に土砂を流すとともに、魚類など川の生き物の移動を妨げないようにしています。

帰化植物「アレチウリ」の駆除
天竜川上流部では、確認されているおよそ850種の植物のうち、190種（2割）が帰化植物です。

貴重な植物を絶滅から守りつつ、今後の天竜川を考えていきます。

植生への配慮

天竜川には、帰化植物（外来種）がたくさん生育しています。帰化植物は繁殖力が強いため、河原に昔からある植物の生育の場を奪うなどの影響も出てきています。そんな帰化植物への対策を、地域の皆さんや市民団体の方々と一緒に考えながら取り組んでいきます。

美しい風景と調和する砂防施設の整備を進めています。

景観に配慮した砂防事業

周辺の環境に配慮することは、砂防事業を進めていく上で重要なことです。その場所の状況に応じ、さまざまな工夫をした砂防施設の整備を進めています。

■景観に配慮した砂防事業の例

【自然を利用している砂防施設】
中田切砂防林の完成予想図（駒ヶ根市・飯島町）
現地に生育する渓畔林を生かした渓流づくりが土砂の流出を抑え、流域の安全を守ります。川を訪れる人々に潤いを与えるとともに、渓流の生態系も保全します。

【人工滝工法の砂防施設】
中御所第2砂防えん堤（駒ヶ根市）
中央アルプス駒ヶ岳ロープウェイのバス路線の近くにあります。周辺の風景に配慮し、急峻な地形を生かした「人工滝工法」を採用。登山客や観光客など多くの人々の目を楽しませています。

【木製の型枠を使用した砂防施設】
矢立木砂防えん堤（大鹿村）
秋葉街道〈国道152号〉に近く、観光ルートにもなっています。こうした状況に配慮し、周辺の木々と調和する間伐材埋込型工法を採用しました。